

学校関係者評価報告書

学校名：あいちビジネス専門学校

<p>1. 学校目標</p> <p>(1) 本学園の建学の精神である「社会から喜ばれる知識と技術をもち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」を具現化し、社会人としてふさわしい資質をもち、社会発展に貢献できる人材を育成する。</p> <p>(2) 社会・企業からのニーズを取り入れ、必要とされる最新専門知識を修得させると共に、社会が求める人間性を培い、周囲から信頼され、健全な社会感・人生観を持った人材育成教育を実施する。</p> <p>(3) 変化の激しいビジネス社会に対応するため、企業・関連団体との連携を密にし、日々進化する社会に対応できる考え方を持ち合わせた人材育成を行う。</p> <p>(4) 教職員は、学生の伴走者であることを自覚し、学生個々の将来像を見据えた教育を行う。</p>

<p>2. 学校目標に対する評価・意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標の達成や学校運営の向上に向けた具体的な取り組みがされており、質の高い教育を提供されていると考えます。今後も引き続き素晴らしい教育活動を行っていくことを期待しています。 ・社会人として必要な「ビジネスマナー」「コミュニケーションスキル」「情報機器に関する知識」「柔軟な発想」を育成する目標だと思えます。 ・社会のニーズを捉えた教育課程の変更及びカリキュラム・授業内容の検討を速やかに進め、実行されている点は、大変評価できます。 ・時代に合ったカリキュラムの見直しや新たな教育内容の導入が進められており、継続的な教育の改善、向上が図られています。 ・「授業アンケート」や「学校生活を振り返ってアンケート」の実施は良いと思えます。特に卒業生にアプローチしているのは評価できます。今後も卒業生とコンタクトをとれるツールを開発していただければよいと思えます。 ・先生と学生との距離感・親密度が非常に高い状態を維持されているのだと思えます。今後もそのようにしていただければ、退学者の抑制や学生間の問題等の解決につながる事が考えられます。 ・コロナ禍で様々な障壁があった中、高い資格取得率・就職率を達成できている。特に履修学科に関連した分野への就職率が高いという実績は、学生に寄り添った教育・指導をされた結果であり、学生とその保護者、就職先企業のニーズに適切に応えられている証であると思われ、今後も大いに期待できます。 ・様々な理由があり退学者をゼロにすることは難しいことですが、抑止する活動も積極的に行われており、今後も継続していただきたいと思えます。 ・学生支援について改善方策が他のものと比べ曖昧で、明確な目的を持った検討がなされていないと感じます。 ・ホームページも入学対象者である高校生にあわせてリニューアルしたり、学校行事も充実させたりするなど、積極的な取組も評価できると思えます。 ・Instagramをはじめとした SNS での周知が行われている点が評価できます。 ・地域貢献の面では、他の基準項目と比較して取り組みが不十分と感じられます。高い学修成果を地域貢献にも活かせるとよいと考えます。 ・資料、HP、各種 SNS、日々の連絡などから、適切な自己評価が行われていると考えます。

3. 学校自己評価報告書についての評価

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
	4: 適切な評価である 3: ほぼ適切な評価である 2: やや不適切な評価である 1: 不適切な評価である	4: 十分適切な取組みである 3: ほぼ適切な取組みである 2: あまり適切とはいえない取組みである 1: 適切とはいえない取組み	4: 十分な効果が期待できる 3: ほぼ十分な効果が期待できる 2: あまり効果が期待できない 1: 効果は期待できず、改善を要する
基準 1 (教育理念・目標)	4.0	3.8	3.8
基準 2 (学校運営)	3.9	3.6	3.6
基準 3 (教育活動)	3.8	3.5	3.5
基準 4 (学修成果)	4.0	3.6	3.3
基準 5 (学生支援)	3.8	3.5	3.3
基準 6 (教育環境)	3.9	3.8	3.8
基準 7 (学生の受入れ募集)	3.8	3.8	3.8
基準 8 (財務)	4.0	3.9	3.9
基準 9 (法令等の遵守)	3.8	3.5	3.5
基準 10 (社会貢献・地域貢献)	3.8	3.3	3.1
基準 11 (国際交流)	3.8	3.6	3.6

4. 今後の改善方策について

<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標や目標の策定において、学生の声や意見を反映する取り組みはありますか。学生が主体的に参加することで、より適切な目標が設定されることが考えます。学生のニーズは常に変化します。定期的な評価を通じて、学生支援体制の効果を測定されてはいかがでしょうか。 ○授業アンケートなどの集計結果やコメントを参考に学生へのヒアリングの実施を検討していきます。 ・新型コロナウイルスが第 5 類となり、今までのような生活に徐々に戻りつつありますが、今後も感染対策やあいさつ運動を継続していただきたいと思えます。 ・コロナ禍で得た経験の中から、with コロナとなる 2023 年度以降、継続して活用すべきものについては、是非積極的に活用してより高い教育効果を目指していただければと思えます ・学外との連携について、前々より弱いところではありますが、実現可能な小さなことから経験を積み上げることに取り組まれてはいかがでしょうか。
--

- ・新型コロナウイルス感染症による影響（ボランティア活動や病院実習等）が、5類になったことにより少しずつではあるが、動きやすくなっていると考える。流行状況によっては、ボランティア抑制・実習抑制等が発生する可能性はあるが、積極的な活動をしていただければと思います。
○コロナ以前の活動が戻りつつありますが、学校行事、実習などについてより積極的な取り組みを行っていきます。
- ・DX推進委員会が設置されたとのことですが、AI議事録作成ツールや、言語生成系AIツール、RPA利用できる部分があるかと思います。また、AIによってデメリット等ありますがそこを理解した上で、学生に対してもAIの有用性等を説明することにより今後の新しい発想を持った学生が社会に進出することにより会社への貢献度の高い社員となることが考えられます。
○引き続き検討していきます。
- ・学生の受入れについて、卒業生や社会人を対象とした学びの機会は需要があると思われます。
- ・学校卒業後進路を変更したいという学生さんも増えてくると思われます。その時に、学校の支援体制でフォローしていただきたいと思えます。
- ・卒業生との交流の場を設けるのも良いかと思えます。
- ・卒業生との継続的な接点を設けリカレント教育へつなげられないでしょうか。具体的には、卒業生向けの情報提供サイト（LINE Worksなど会員制SNSを使用してもよい）で、学校からは社会人向けの資格取得やキャリアのリプランニングに関する講座情報やイベントの案内を発信し、卒業生からは転職（または再就職）の相談や学校から提供してほしいコンテンツや連携の機会などのニーズを吸い上げます。学校としては、次の時代のニーズを捉えて新たな収益源を見つけることにもつながり、卒業生のネットワークを強固であることが学生募集時のメリットとしても誇れると思えます。
- ・今後も少子化が進む中、ひとつの収益源とするためにも卒業生を中心とした社会人向けの資格取得支援、講座開催等の取組み強化ができるとよいと考えます。
○まずは卒業生との情報交換できる機会をも持ち、情報収集を行います。
- ・学校自己評価報告書に記載の法令等の順守は個人情報のことがメインとなっていますが、昨今の報道にあるとおり、思わぬことが社会問題となるリスクがあります。学生のうちからコンプライアンスについて学べられるようにした方が良いと思えます。
○学科により科目は異なりますが、授業内での取り組みを検討します。
- ・社会貢献や環境保全の取り組みは、ますます大切になると思えます。学生のうちから地域や様々な分野の人々との繋がりも経験していただきたいと思えます。
- ・活動再開できるようになっており、以前より課題であった社会貢献・地域貢献に対しての活動も積極的に行って頂けたらと思えます。
- ・地域貢献については、時間的な制約から学生自身がボランティア活動を実施するのは難しいと思えます。しかし、地域に対する公開講座であれば卒業生を含む社会人向け講座と同じコマを利用して実施できないでしょうか。また、学生主体のオープンキャンパスを地域の方にも開かれた状態で行うなど、他の取組み活かして地域貢献につなげられたら良いと思えます。
○オープンキャンパスでの学生スタッフとしての経験を社会貢献などに活かす方法、場面を検討していきます。